

## 令和元年度 第4回 公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和元年8月28日（水）

13：30～14：30

場 所：長野県立大学後町キャンパス  
レクチャーホール（講義室）

### 1 開 会

#### ○新井企画幹

それでは、定刻になりましたので、ただいまより令和元年度、第4回公立大学法人長野県立大学評価委員会を開会いたします。

本日の進行を担当いたします、高等教育振興課の新井と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、沼尾委員につきましては事前に欠席のご連絡をいただいておりますが、伊藤委員も、今朝急遽、所用のため欠席される旨、ご連絡がありましたので、ご報告いたします。

それでは、早速議事に入らせていただきたいと思います。進行は山沢委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

### 2 議 事

公立大学法人長野県立大学の平成30年度業務実績の評価について

#### ○山沢委員長

それでは、本日の議題に入ります。前回の振り返りということでございまして、前回の委員会では、評価が保留となっております12項目を中心に、75の小項目につきまして評価を行っていただきました。また、小項目評価の検討、大項目評価及び全体評価の内容についてもご検討をいただきました。ありがとうございます。

前回、第3回の終了後、今回も委員長案を8月22日にお送りいたしまして、8月26日月曜日に事前にご意見集約をさせていただきました。ご協力ありがとうございます。

前回、お話をさせていただきましたとおり、今回で評価書案をまとめたと考えております。よろしくお願いいたします。

大学への意見照会は8月26日付で行っております。それから、本日ご欠席の沼尾委員、伊藤委員のコメントもいただいております。

最初に、評価結果報告書について、前回との変更点をお話し申し上げます。これは資料ナンバーは入っておりませんが、前回との変更点は生駒委員からは財務諸表の分析、成績評価等についてご意見を賜りました。財務諸表の分析等については、年度計画で参考資料、評価委員会コメント欄、それから大項目の6（財務内容に関する事項）で、課題となる点や今後の展開に期待する点として記載いたしました。

事務局、ここの部分、示していただけませんか。

(事務局)

はい。今の資料の8ページでございます。8ページの左下から右にかけて、生駒委員の意見ということで、参考にさせていただきながら書かせていただいております。ご確認いただきたいと思っております。

○山沢委員長

よろしゅうございますでしょうか、8ページの部分です。

前回、第3回でいただきましたご意見を反映させました参考資料が、その次に資料として配布されていると思います。厚手の58ページつづりのものです。ここで前回との変更点は、前回にいただきましたご意見を反映させております。

それで、a評価については、全てコメントを書き入れてございます。a評価、ほとんど抜けておりましたけれども、入れてございます。そこが一番大きく違うところになります。

法人からはですね、全てのaコメントを記載するのかという意見もございました。

○事務局

資料的には入ってございませんけれども、大学からお電話いただいた中で、全てのそのaというコメントの項目、全部載せるのかというような話もあったということだったんですけども、前に沼尾委員の意見もございましたので、議論のデータを書き加えるということですので、全て書かせていただいております。

○山沢委員長

それは私の意見でございまして、aでも大学側に読んでいただきたいというコメントも、随分入っておりますので、書き入れてございます。

それから、この資料で下線が入っております。下線が入っておりますけれども、この下線そのものは取りません。例えば何を言っているかということ、例えば3ページのコメントのsのところ、2番ですね、ここに下線がこう入っておりますけれども、この下線は取るということでございます。

ご意見いただいた中で保留とした事項がございます。生駒委員から、項立てについて評価委員会の、これは報告書のほうで、評価委員会はどのくらいやったのだという実績のスケジュールで実績を示す。それから評価委員名、氏名の報告書への記載については今のところ保留としてございます。その点いかがでございましょうか。必要ということであれば、後ろのほうに書くというのは、もともと生駒委員は1ページの評価方法のその次にこう書いてあったと思うのですけれども、事務方としては後ろのほうに書くというものではないかというふうな、事務的な相談もあるんですが、その点はいかがでしょうか。

○生駒委員

座り場所をどこにするかということはありませんけれども。

○山沢委員長

記載場所というのは。

○生駒委員

どういう経過、どういう審議をしてこれに到ったかという、これはスケジュールで実績を示して残したほうがいいじゃないの、監査手続きの場所なので。

○事務局

それでは、そのようにさせていただきます。

○山沢委員長

よろしくお願いします。

○生駒委員

いつ、何をやったかということですよね。結構、ほかの大学を見ていると、そういうことが書いてある。

○山沢委員長

それから、私がちょっと先走ってしまいましたけれども、法人からの意見が、実は評価結果の原案を法人に通知して、意見がある場合には申し出を受けることになっているわけでございますけれども、これは実施要綱の3の2に規定されていることなんですけれども、その法人から意見がございました。これについてご議論をいただきたいと考えてございます。事務方、すみません、資料の説明をちょっと簡単をお願いします。

○事務局

法人からの意見ということで、指摘がございまして、それを取っていただきますと……

○山沢委員長

もう一回、言いますか、法人からの意見ということで。

○事務局

評価結果についての意見ということになります。

まず1枚目に、長野県立大学の理事長から委員長宛てに、このウで意見を出しますよというのと、検討期間について9月10日までにご回答をお願いしますということでございます。

ただ1ページ目にある3本の問い、それからその後に引き続きまして3本、それからその後、実は細かいA4の横としてまとめておりますが、項目74まで細かく、ちょっとこういった表現でいかがかと。

○山沢委員長

ちょっと待ってください。皆さん、委員の皆さんわかりますか。この表紙のものが1枚、それからその次に、わかりますか、2枚つづりのものと、それからA4で横にして並んでいるもの、3種類の書き方で意見が出てきていると。

○山浦委員

これ全部、違うことが書いてあるの、この3種類。

○山沢委員長

これは違うんです。

○山浦委員

これと違うことが書いてある。

○山沢委員長

簡単をお願いします。

○事務局

まず1枚目の話は、前回もちょっと議論になりましたけれども、大項目のその教育運営が全体でB評価ということでございましたけれども、c評価の一つだけでそれ以外がs、aという、非常に高い評価をいただくので、大学としてはA評価が妥当だと考えているというような意見があり、それから、あとはちょっと細かい文言の話ではありますが、ホームページの部分については、入学者の受け入れが十分行われているのでaだと。あるいは、図書館の本の収集みたいなものについても、大学としてはaということを考えているというような経緯があるということでございます。

○山沢委員長

その後、私が続けます。大項目1について、それから小項目の12、小項目の34とあります。それから報告書に対して10ページに3つほどございまして、あと、A4横で、いっぱいあるというふうになっております。

一番大きな問題、問題というか、私が考えておりますのは、この表紙付けごと、同じものが入っていますけれども、大項目1の教育の評価ですね、これがcが一つあるために、大文字のBになっているわけですが、これがなんとかAにならないか、Aが適当だと大学は考えるということなんですけれども、それに対して、ここで少し検討したいと思っております。まず、その検討をお願いします。

私としては、前回も皆さんとちょっと、こちらのお話の中で、確かに小項目、s評価がいっぱいあるのに、一つcがあるために、大項目Bとなって、Bも遅れているのではなくて、ほぼ順調というようなところなんですけれども。

この評価の仕方についてはちゃんと決められておまして、どう読んでも、なかなか拾えないような形になってしまっているのですけれども、実施要綱、チェックを見て、評価

要項を見ていくと、もう文章的にパシッと決まっていますので非常に難しいかなと考えております。

実績に、教育的な見地での県立大学の評価というのは、十分進んでいると進めてもあると思うわけでございますけれども、やっぱり教育、その教育を支える教員組織のマネジメントですね、若干、まだ行き届いてないところがあったということでの大文字のB評価という観点で、今更評価基準を変えるわけにはまいりませんから、ここは聞いて、学長さんに納得してもらおうということではないかなと思うところなのですけれども。

生駒委員と山浦委員、ご意見をお願いします。なお、今日、ご欠席のお二人から、実はこれについてご意見をいただいています、先週の議論のようにBでやむを得ないだろうということをお願いしております。

#### ○生駒委員

この基本方針と実施要領から見て今、委員長から基準どおりだということなんですが、私もそういうふうに読んでいたのですが、総合評価のところは、どこでそう読めますかね。

#### ○事務局

事務局からでございますが、お手元にお配りしておりますけれども、実施要領でございますが、まず1番の評価方法の全般的事項というようなことで、(1)で評価は、別表1の評価基準により行うことを「基本」とするという表記にしております。

#### ○山沢委員長

項目別評価というのは、もう小項目も大項目も入っちゃうんですね。総合的な、全体についての評価というのは、項目別評価の結果を踏まえて、総合的に評価することを基本とするということになるんじゃないかと。

#### ○事務局

それともう1点、別表第1、別表第2を見ますと、今、ご議論がある、別表第2で、大項目別評価をする際に、それぞれの基準が変わっております。b以上とかとありますが、表をご覧くださいと、一応、評価の目安というような、目安という表現を使っておりますので、今、まあそういう理由では。

#### ○生駒委員

今更ですけれども、その評価の目安というところを十分議論した記憶がないんです。そんな思いで。これはどこから持ってきたんですか、もともとは。

#### ○事務局

これは他の公立大学法人であったり、国立大学法人の実施要領を参考にしています。

#### ○生駒委員

標準的に。

○事務局

はい、そうです。

○生駒委員

どこの大学もこれを機械的にやっている。

○事務局

若干、5段階、4段階にしていたりというようなことはありますけれども、こんなようなことであります。

○山沢委員長

私は非常に冷たいんですけれども、まあこの報告書ですね。報告書、10ページつづりの3ページを見ていただきますと、全体を評価しているんですけれども、この全体評価の中で、中期計画の進捗は順調であるというふうにまで言っているわけで、全体評価として、それで、いろいろ問題があるよということで、一番最後、左側の3行ですけれども、一方、FD、SD研修が十分に行われなかったなど課題がある、見受けられるというふうに指摘しているわけですね。

だからこの前に、学生に対する教育そのものは効果があったと判断できるけれども、教員のその準備ということでの一つであるFD、SD研修というのを行われなかったのは非常に残念だというふうな書き方もあるのかなと。そこで、救いになるとはわかりませんが、そこで学生に対する教育的な効果を減少させることはなかったと書くことは意味があるかなと思うんですけれどもね。そうすれば、学長も少しは楽になるかなと。

幾ら読んでみてもね、スパッと書いてあるんですね、ここ、評価の実施要領が、えらい綺麗な文章で伝わってきてしまっているんですが、いかがでしょうか。お二人がよければ。

○山浦委員

言いようもない。

○山沢委員長

だって、わかっていることだったのにね。

私が申し上げたのは全体評価の中で、でもちゃんと教育、大項目、教育はBだけれども、学生への教育的な活動の成果というのは十分出ているというようなことを書いて、いこうというようなことなんですけれども。

○生駒委員

つけ加えて。

○山沢委員長

つけ加えるなら、この、今、3ページにFD、SDが行われなかったが、幾つかの課題が見受けられるようになって課題があったという、前に課題もあったが評価としては……

○山浦委員

大体、項目はある、評価基準の別表2、表2ですか。Aというところ、全てb以上と書いてあるでしょ。それを括弧で書いてあるんですか。括弧というのはどういうことかという、これを参考にして決めた話じゃないか。本当にそうなら、括弧なんか取っておけばいいんだと私は思うんですけどもね。括弧ということは、まあ括弧ですよ。参考だと含めた。

○山沢委員長

まあ、括弧……うーん……

○山浦委員

ふつうは本当にb以上評価だと、全てbだと書いていいわけであって、括弧して書いてあるという意味は何かということですね、敢えて言うならば。

○山沢委員長

なるほど、そういう価値もあるんだ。うん、まあ括弧ですね。何か……

○事務局

ちょっと参考でよろしいですか。事務方の立場で、私も気になるのはいっぱいあって、同じ括弧内で、小項目評価のcが80%未満なのですけども、確か何か達成率が80%に達していなかったのだけれども、初年度なので、これこれの事情により特別にbと評価するという評価したところがありますよね。

というようなところもあるので、こちらのほうは厳密にやって、例外もあるという条件にはなっている。そこは悩ましいのですが、もしcがbでいくのであれば、b評価のところをそういう表現に変えるかおおむね順調というので、これは間違えてb評価はこれこれしかじかでbとなったと、このページでいうと、4ページのところを、全体評価を含む例えば大項目のb、中期計画の進捗はおおむね順調と書いてあって、その後4行、bにした理由が書いてあるんですが、これ理由が書いてあるようで実は何も書いていなくて、sが幾つでaが幾つで、bが幾つで、cが幾つだったらBだよと言っているんですよ。

ですから、もしA評価になれば、個人的に評価のことをいうのは差し控えるのですが、評価の部分については、ちょっと委員の人たちさえ動けば、まあ、書くとしたらここでもうなんだけれども、cがあるので、基準に基づいてBとせざるを得なかったと、そういうニュアンスなのかなと思って、見てはおりますけれども。

○生駒委員

今、1項目がc評価となったためと書いてありますね。理由が。

○山沢委員長

何せこれ60・・・自己評価もcなんですね。

○山浦委員

自己評価のcは、aなんかもらえるはずがないという、そういうことも言えるんでしょ、これ。

○山沢委員長

今回、初めてわかったんです。

○事務局

一応、私が申し上げたのは、そのレベルでは括弧内じゃないと議論をしましたよね、というはあるんですが、実際ありますというのは、この厚いページで21ページ、小項目で言うと35番ですか、科研費のところは、基準どおりいくとcなんだけれども、bが妥当だよねという、反論している例はあるということです。

○山沢委員長

いや、申請率だからな。科研費は出して当たり前だからな。

○事務局（課長）

それについても、何か言い分があるんじゃないですか、法人の。

○山沢委員長

採択率を充当というのはわかるんだけど。

○事務局

ここはむしろ、その基準どおりやるとcでいいようにbにしてやると温情的な点数のつけ方をして、まあそういう、そういう意味です。

○山沢委員長

そうかそうか、何かそういう意味ね。

○事務局

目標が80%で、80%の達成というのは、64を下回ると自動的にやるとcになるところが、そこは救っているのではという、そういう、片や救い、片や救わないというのがちょっと悩ましいかなと。



○山沢委員長

まあこういった、初年度だからね、4月に来て、締め切りが、8月頃でしたか。ちょっと無理だろうというのがあって、やはりね、というのでbだと。でも、大学もつけたからね。

○事務局

そうです。それはもうcはcでしようがないと思うんですね。それはしようがないです。

○生駒委員

cはcでも、自己点検のほうは、総合評価というのはいないわけですか。

○事務局

ないですね。

○山沢委員長

ということで無理でしょう、総合、全体評価の中のFD、SDがスムーズになっているところに、一つ、いや教育的な学生への教育効果というのは十分上げているというのをちょっと入れて、金田一学長の逃げ道をつくってやるということで、よろしいですか。

○事務局

それは、そういう意見の言うとおりに、ルールを直すのなら何もここでルールを議論するというというのは・・・。

○生駒委員

大学は気にするんでしょうね。

○山浦委員

まあ、それは気にするでしょうね。

○生駒委員

見る人は、あまり細かく見ないで、この点数だけ見ちゃうんですからね。肝心の計画ダウンだな。

○山浦委員

そうですね。いろいろな取り組みが、ウエイトは半分以上とかないと。

○山沢委員長

見つからないんですよ、昨日から探しているんですけども、理由が、何か救う道はないかなと。大項目評価のところに総合的な判断というのは、入れてもいいということになればいいんですけども、入れてもいいのかどうか、何か。

せめてね「別表2に定める評価基準をもとに」とか、何か書いてありませんか。

○事務局

「より」と。

○山沢委員長

「より」だとね「より」なんだよね。

○生駒委員

でも、見る人は評価基準自体知らないですからね。細かく知らないの。

○事務局

評価結果報告書にも合わせて掲載しますけれども。

○山浦委員

これは別表で・・・、評価は計画どおりに進んでいる、概ね計画どおりに進んでいる、それは評価であって、例えば理事長と、こう書いてあるだけだと私は思うんだけど、括弧して書いてあるということは。そういうことだね。評価の目安だから、評価の目安ということだから。

Bをつけられたら計画どおり進んでいるということじゃないんですね、計画どおり進んでいけばBをつけるところ、Aをつけるところということになっているんですね、これ多分、目安が。例えばb以上だよと、こう言っているだけで、後で括弧してあったり。

○山沢委員長

全てb・・・

○山浦委員

いや、例えば、括弧してあって、計画どおり進んでいるとはそういうことで、例えばb以上ですよと、こう言っているだけじゃないかと私は思って。

○生駒委員

まあ、これ機械的にやる方がいいかどうかと。これは変わる余地はないかというので・・・この期待があるがために、今は縛られているわけですよ。だから心情的に、いいじゃないかと思っているわけだから。

○事務局

それから言えば・・・。

○生駒委員

そこは委員長決裁に入るからね。

○山沢委員長

委員長にご一任いただけますか。そうであれば、しっかり考えますから。まあ、大学の考え方もいいだろうし。

○生駒委員

いやいや、伊藤委員、沼尾委員は、反対されていたように思うのだけれども。

○事務局

それは1週間前、全員一致でBに決めたという経過もあるので、大学から言われてひっくりかすのはいかがかということで拘っておられます。

○生駒委員

なるほど。そういう意見ですね。

○事務局

続けて言えば、この評価の実施要領を直してですね。

○事務局

直して・・・その前に直すとか、最終案で直すのはどうかと。

○山浦委員

決めてしまってからそれを直すのは。

○事務局

簡単に沼尾委員のご意見の主旨を申し上げますと、委員の全会一致で決めましたと、それから大学からの意見に基づいてやることに対しては、この委員会としての独立性みたいなものがどうなんだろうかというようなことをおっしゃっているというふうに聞いています。

○生駒委員

期限を講じてもらって、日付を出しましょうか、先程のとおり。

○山沢委員長

そうですね、それしかないと思うんです。

○山沢委員長

2回はやっているんですよね、1年間で。それをやったというふうに、2回するということですので、出席が半分ぐらいになるのかな、それで・・・

○事務局

6割強ぐらいです。

○山沢委員長

そこでやった科研費の申請がどういうふうな、それから科研費そのものは研究のほうでb、cなのが伊藤委員さんという、そういった、よりいい効果にならないんじゃないかということでcという、内容と、役員の内容と、それからbの量ですね、回数で入っているんですからね、弱りましたね。

あとは何とか、あとは何とかなるんですよ。ホームページも、これは大学、考え方が違うので、バンバンと議論するんですね。あと細かいのはいっぱいあるんですけども、そこは配分を考えていますけれども。

○山浦委員

つまり、でかいかな。

○山沢委員長

確かにね、教育内容に……

○生駒委員

まあ、山沢委員長が続いて、決裁していただいて……

○山沢委員長

結局、業務運営もBになっているでしょ。この業務……まあ、しょうがないな。

○事務局

業務運営のほうも、cが1個上げてbになっています。

○事務局

もう一つの業務運営のほうもやっぱり、教員ではなくて、職員の研修の出席率が悪いということになって、そこに小項目cになっているとために大項目Bになっているという、同じ構造になっています。

○山沢委員長

同じ構造なんですね。

○生駒委員

まあ、大項目をBにしておけば、小項目はcは、なくすように努力しますよね。

○事務局

そうですね。

○生駒委員

苦しいな。

○山沢委員長

それは間違いないです。お二人、いかがですか、ご意見は。

○山浦委員

いや、心情的にはAだと思うんです。心情的にはね。

○山沢委員長

心情的にはね。

○山浦委員

と、思っているんだけども。

○山沢委員長

まあ、生駒先生は、委員長が決めろというようなことを最後におっしゃっているんですけども、山浦委員はいかがですか。

○山浦委員

もう、いや、もう委員長がお引き受けいただけるのならご一任します。

○生駒委員

正規の手続きを踏んで、評価基準自体を変えろというのは結論としてはそうでしょうけれども、この委員会の場で、ここでは検討してもらって。

○山沢委員長

こういうのはやっぱり、仕方ないですよ。

○事務局

でも、言ってみれば、この委員会、意見解釈として自分で決めて自分で意見解釈しているわけですから・・・

○山浦委員

この評価基準は我々決めたんだから。

○山浦委員

これ、決めたのは、当然、大学もみんな知っているだよ、これ。

○事務局

はい。

- 山浦委員  
こういう基準だよと。
- 山沢委員長  
いや、大学もわかっているんです。
- 事務局  
で、あれば、事後評価に小項目 c はつけないですよ。
- 生駒委員  
本当は、B が一人歩きするからね。ミスリードすることがあるといけませんよね。
- 山浦委員  
教育はB なんだと。
- 生駒委員  
いや、独立性に欠けるといっただけけれども、大学側がいて、この場で基準を変える分には差し支えない。
- 事務局  
そうなんですよ。
- 生駒委員  
どうでしょう、これは心情と合わないわけですからね。
- 山沢委員長  
理由ということ、s を高く評価したいということ、s の理由。
- 生駒委員  
いや、だから比重、ウエイト付けがないわけですからね。
- 山沢委員長  
そうですね。この中でね。
- 山浦委員  
全部 s でも、c が一個あればみんな大項目評価はB だよ。小項目評価を b にしておけば、  
よかったのだけだね。

○山沢委員長

そう。

○生駒委員

まあ、それはおっしゃるとおり、わかりますね。

○山浦委員

気持ちはわかるよね。

○山沢委員長

わかるので。

○生駒委員

合議になっていますよね。5人ですよ。

この評価のね、合議という、結論を出しながらね、多数決ですかね。

○山沢委員長

合議・・・

○山浦委員

決議報告みたいなことにある。この委員会にも。

○生駒委員

それは条例かな。

○生駒委員

合議って書いてあるかな。

○山浦委員

決め方なんですね。

○生駒委員

ありますよ、条例に。条例第6条第3項に、「委員会の議事は委員及び議事に関係のある臨時委員で会議に出席したものの過半数で決し、可否同数のときは議長が決するところによる。」と。

○山浦委員

そういう文言があるのですね。議長が決めて一任だということなんですね。

○事務局

確かにそれはありますけれどもね。

○山沢委員長

では、そうしますか。今のだと、2、2になるわけですからね。これはいないからな。

○生駒委員

今、この場の雰囲気伝えていただいて、まあね、主張を曲げないというところがちょっと・・・

○山沢委員長

いや、お二人に会いにいきますか。ご一任いただけるということであれば、改めてお二人にご意見を聞いて、一人でも賛成してくれれば多数ということになる。

○生駒委員

今でも決められるわけですからね。

○山沢委員長

まあ、それまで。決めるにしても、せめて理由がないとまずいですよね。sとaとの評価が25あったら、30分（さんじゅうぶん）の25、75%以上は進んでいるということからすると「おおむね順調である」というほうが正しいだろうというふうな言い方になるけれども、でも、それは逆らうことになるのだよね。

○生駒委員

まあ、私は対外的な影響力を加味したというかな。

○山沢委員長

確かにね、それはあると思います。

○生駒委員

本当を言うと、今、基準のレートがないようになっているのはどうかと。

○山浦委員

これ、大項目評価の上に全体評価というコメントはある。

○事務局

全体評価に比べて。

○事務局

3ページ、今、ごらんになっている左の紙の3ページ、もう1ページ戻っていただいた。



○山浦委員

そこにAとつけておけば、この全体評価のAだけが一人歩きするんだけど。

○事務局

例えば、すみません、今の全体評価は、A、B、Cではないんですけれども、一つ言えば、上から2番目のところみたいな言い方をすることはあるかと思います。全体で、すぐれて順調というのが一番上にございまして、その2番目の進捗度のところでございますが、上から2番目の評価……

○山浦委員

ちょっと言葉が読めないですが、評価でいうと……。

○山沢委員長

A、B、Cはやめるんですよ。

○山浦委員

いやいや県議会にみんな出すと、大体、AとかBとかというのがわかりやすいから、みんな、AだBだと、こうなっちゃうんですよね。これはちょっとミスリードになるんじゃないかと、私は思うんです。

○山沢委員長

まあ、確かにね。

○山浦委員

まあ、これ、まあいろいろなことがあるけれども、大学は教育が一番だから、そうはいっても。

○生駒委員

私が思うには、上に書いてあるのは、この報告書が大学の応援団とかと書いてあったような。

○生駒委員

いや、これ、大学を応援する意味合いがあるというような……

○山沢委員長

まあ、そうなんだけど、応援も、厳しくやっていくのが応援ですけども、厳しくやる。まあ、影響の大きさというのはあると、そこは考えてもらうということで。

ただ、技術的にはS、Aだろうな。「sプラスa」で、Aとしたということだろうと。

いやいやいやいや、もし、よろしければAにしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

○出席者一同

はい。

○山沢委員長

理由はですね。技術的な理由としては、小項目のsの数とaの数を足して24ですか、ほぼ75%が非常に進んでいる、a以上である、そこを高く評価しています。

cに対しては、cのFD・SDは、2回開催はしているんだけど、その開催した効果というのが十分でないということでcにしていると、開催は一応、しているということです。内容を濃く、きちんと成果が出るようなFD・SDとすべきであると。回数としてはきちんとこなしたというふうなことでc、それから、教育効果はどこに出ているかといったときに、学生が幾つかこう、特徴あるプログラムをこなして、非常に教育効果は高い教育というものが出ているということ、このことを考慮して、中期計画、教育に関する中期計画、進捗は順調ということでAにしたいということではいかがでしょうか、山浦委員さん、いいですか。

○山浦委員

よろしいです。

○山沢委員長

両委員には、私のほうから直接お会いするか、懇切丁寧なメールか、どちらかでご了解を賜りたいというふうに思います。

ここでは一応、回数ということで委員長決裁としてくださいと、よろしゅうございますか。ありがとうございます。すみません。長引いてしまいました。

○山浦委員

ご苦労さまです。

○山沢委員長

以上しておいてください。すみません。

一応時間になりましたがよろしゅうございますか。私の仕事はかなり残りましたが、本日はこれで終わりにしたいと思います。

○増田部長

本当にどうもありがとうございました。評価をお願いした県の立場といたしますと、新しい大学のためにということで非常に熱心にご議論いただき、ありがとうございました。

一方で事務局を預かる立場としては、不手際と言いますかもうちょっと効率的にやれたなという感がございまして、大変ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

にもかかわらず、当初予定していた委員会時間に加えてご議論をいただき、またその間にもメールや電話、打合せ等本当にお世話様になりました。御礼申し上げます。

また、知事の方にも、県として当委員会から報告を頂戴し、県議会へ報告をしながら、大学の方で、改善に役立てるといふことでご議論いただきますので、大学にもしっかり伝えさせていきたいと思っております。

本当にどうもありがとうございました。

○新井企画幹 ありがとうございました。以上をもちまして令和元年度第4回公立大学法人長野県立大学評価委員会を終了いたします。

(了)